

2025年3月期 第1四半期決算 説明資料

2024年8月9日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2025年3月期 第1四半期決算

2. 2025年3月期 業績見通し

1. 2025年3月期 第1四半期決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第1四半期累計	2025年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業収益	453	476	+23	+5.2
営業費用	457	477	+20	+4.4
営業利益	-4	-1	+3	—
経常利益	6	-3	-9	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4	-4	-9	—

単体経営成績

営業収益	366	382	+15	+4.3
営業費用	377	390	+13	+3.4
営業利益	-11	-8	+2	—
経常利益	0	-10	-11	—
四半期純利益	0	-10	-10	—

- 連結営業収益は、関連事業収入で当年度のマンション販売がなかった影響により減少となったが、運輸収入では2024年問題を背景とした鉄道シフトの動きが進みコンテナが増加したため、全体では前年度を上回った。
- 連結営業費用は、電力単価高騰の影響で動力費増加等があり、全体では前年度を上回った。
- 連結営業利益は、連結営業収益の増加額が連結営業費用の増加額を上回ったため損失額は縮小。経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年度の移転協力金受取の影響により減益。

1. 2025年3月期 第1四半期決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2024年3月期 第1四半期累計	2025年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	404	430	+25	+6.3
	営業利益	-32	-27	+5	—
不動産事業	営業収益	50	48	-1	-3.5
	営業利益	26	24	-1	-6.2
その他	営業収益	11	12	+0	+4.9
	営業利益	1	0	-0	-22.1

(単体) 事業別状況

鉄 道 事 業	営業収益	324	342	+17	+5.4
	営業費用	361	375	+13	+3.7
	営業利益	-37	-32	+4	—
関 連 事 業	営業収益	41	40	-1	-4.5
	営業費用	15	15	-0	-1.2
	営業利益	26	24	-1	-6.5

- 鉄道ロジスティクス事業では、運輸収入のうち食料工業品や積合せ貨物を中心に鉄道シフトの動きが進み増加となり、動力費等の経費が増加したものの増収増益。
- 不動産事業は、前年度はマンション販売があったため減収減益。
- その他事業は、リース収入増加があったもののリース原価や人件費増等の影響で前年度並み。

1. 2025年3月期 第1四半期決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 第1四半期実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,376	4,422	+46	流動資産 634億円 (対前期末 +54億円) 固定資産 3,788億円 (対前期末 -8億円)
負 債	3,445	3,498	+53	
純 資 産	931	924	-7	
自己資本比率	20.0%	19.6%	-0.4	

単体財政状態

資 産	3,987	4,019	+32	流動資産 418億円 (対前期末 +39億円) ・現金及び預金の増 +50億円 固定資産 3,600億円 (対前期末 -7億円) ・償却による減
負 債	3,368	3,410	+42	当期末長期債務2,179億円 (対前期末 +130億円) ・社債 440億円 (対前期末 +140億円) ・有利子借入 896億円 (対前期末 -9億円) ・無利子借入 842億円 (対前期末 -0億円) 第三セクター線路使用料等未払金の減 -104億円
純 資 産	618	608	-10	

- 2024年6月にグリーンボンドを含む社債を発行し140億円調達。
- 震災・大雨・噴火に対応したコミットメントライン（貸付限度額150億円）を継続。当期まで利用なし。

1. 2025年3月期 第1四半期決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第1四半期累計	2025年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	22	11	-11	-50.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	-66	-85	-18	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	106	138	+32	+30.8
現金及び現金同等物の増減額	61	64	+3	+5.1
現金及び現金同等物の期末残高	303	276	-26	-8.9

単体キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー	25	14	-10	-41.4
投資活動によるキャッシュ・フロー	-68	-84	-15	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	80	120	+39	+49.3
現金及び現金同等物の増減額	37	50	+13	+37.0
現金及び現金同等物の期末残高	179	148	-30	-17.2

- 連結の営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額が増加したことにより流入額が減少。投資活動によるキャッシュ・フローは、機関車等輸送機材の取得増があったこと等により流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行等により流入額が増加。現金及び現金同等物は期首から64億円増加し、期末残高は276億円。

1. 2025年3月期 第1四半期決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2024年3月期 第1四半期累計	2025年3月期 第1四半期累計	対前年同期	
			増減	%
輸 送 量	6,259	6,278	+19	+0.3
コンテナ	4,415	4,506	+90	+2.1
農産品・青果物	283	292	+9	+3.3
化学工業品	385	393	+8	+2.1
化学薬品	277	270	-6	-2.5
食料工業品	744	798	+54	+7.3
紙・パルプ	481	505	+23	+5.0
他工業品	306	287	-18	-6.0
積合せ貨物	796	808	+12	+1.5
自動車部品	171	177	+5	+3.4
家電・情報機器	86	97	+10	+11.8
工口関連物資	103	90	-12	-12.4
その他	778	783	+5	+0.7
車 扱	1,843	1,771	-71	-3.9
石油	1,198	1,228	+30	+2.5
セメント・石灰石	357	274	-82	-23.1
車両	176	171	-4	-2.5
その他	111	96	-15	-13.8

- コンテナは、気温上昇等による需要の増加や一部顧客における鉄道シフトの取組み等により清涼飲料水を中心に食料工業品が増送となった。紙・パルプや積合せ貨物等についても2024年問題を背景とした鉄道シフトへの取組みの進捗により増送となり、コンテナ全体では前年を上回った。車扱は、石油が外出需要の増加等によりガソリン、軽油が増送。セメントが工場の定期修繕計画の変更により減送となり、車扱全体では前年を下回った。コンテナ・車扱全体では前年を上回った。

1. 2025年3月期 第1四半期決算

2. 2025年3月期 業績見通し

2. 2025年3月期 業績見通し

連 結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 見通し	対前年同期		2025年3月期 前回見通し (2024.5.13)
			増減	%	
営 業 収 益	1,885	2,012	+126	+6.7	2,012
営 業 利 益	-47	30	+77	—	30
経 常 利 益	-42	21	+63	—	21
親会社株主に帰属する 当期純利益	-35	42	+77	—	42

単 体

営 業 収 益	1,525	1,657	+131	+8.6	1,657
営 業 利 益	-67	13	+80	—	13
経 常 利 益	-62	3	+65	—	3
当 期 純 利 益	-47	32	+79	—	32

- 既存の輸送力を最大限活用し、物流の2024年問題やカーボンニュートラルなどの期待に応え、輸送量拡大により対前年増収を見込む。物流の2024年問題を背景に、一部の品目において鉄道シフトの動きが進んでおり、中距離帯の輸送力を強化した効果も出始めている。
- エネルギー価格や原材料価格の上昇、自然災害の懸念など、厳しい状況は続くと見込まれるが、安全確保に向けた取り組みは着実に実施する一方で、徹底したコスト削減施策を継続する。
- 通期業績予想は2024年5月13日公表の前回予想から変更なし。

〔当社グループの事業系統図〕

